

斑紅葉

能村 研三

能登を訪ねて

気象図の乱れし夜のにぎり酒

斑紅葉本土寺三つ葉葵の寺にをり

銀杏落つ掃除地藏の御前に

忘年会手書き略図のよく描けて

丁寧に均す大根抜きしあと

裸木となりて一目おかれあり

半纏の紺の香も添へ飾売る

座送りをして遠ざかる牡丹鍋

数へ日といふ期限あり書を返す

枝打ちの杉の香強き雪催

昨年の元旦早々に発生した能登半島地震から一年を迎えた。

能登は能村家の祖先の発祥の地であり、故郷のような深い繋がりを感じている。ましてや、先師登四郎の句碑が和倉と、羽咋正覺院に、私の句碑が氣多大社にあることから、親密な思いを擁くところでもある。

そんな思いもあって、十一月三十日、十二月一日と能登を訪ねた。妻悦子、娘夫婦も同行してくれて、英紀さんに車を運転してもらった。道端さんにお世話をいただき、氣多大社に参詣し、境内にある「神鷲」句碑を見て、地震の被害が無かったことを確認し安堵した。白山市の米田紀子さんと、輪島の我門行男さん、富山の高田昭広さん、道端さんご紹介の小西さんも参加いただき中能登良川の鶉宿で句会を行った。輪島の我門さんは今回地震で家屋が被災され、現在は鶉宿の近くの良川で仮住まいされている。

翌日小島史子さんがお住まいだった志賀町を訪ねたが、五年前に句碑建立の祝賀会を行ったロイヤルホテルも被災され現在も灯がついておらず休業のままであった。小島さんは

現在金沢の親戚の方のところにお住まいのようだ。

志賀町から車を走らせ七尾、和倉温泉に向かった。こちらの方は地震の被害が甚大だったようで、半壊されてブルーシートに覆われた家々もあり心が痛んだ。

和倉温泉の弁天公園にある登四郎の「春潮の遠鳴る能登を母郷とす」の句碑は今回の地震でも倒れることはなかったが、句碑のすぐそばにある鳥居が無惨にも崩落していた。平成二十八年に沖の勉強会を開催した美湾荘も地盤ごと沈み建物が傾いてしまった。殆どの宿泊施設が未だに営業しておらず、街中は工事車両だけが行き交い、かつての華やかな街の賑わいは失われてしまった。国による護岸工事を着手することが先決で本格的な再開まではあと数年はかかるとのこと。

七尾近くにお住まいの坂下成紘さんにはこの日は会えなかったが、その後お手紙をいただきお元気な様子であった。

私にとっても深いつながりのある能登に、一日も早い復興と平安が訪れることを祈りたい。

能村 研三